

講義コード	11C0126000	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	青才 高志	開講期	第2期
科目名	景気循環論2					青才 高志		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	1980年代後半日本経済はバブルに浮かれていたが、90年代は一転して戦後最長の「不況」に苦しめられることになった。08年には、リーマンショック、「百年に一度」といわれる金融経済危機が世界を襲った。そして、ギリシャ危機に始まるユーロ・ソブリン危機、11年頃からの新興国の経済停滞、15年以後の中国経済減速等、未だ「不況」を脱していない。また、日本政府の判断では、12年末（アベノミクス）以後日本経済は長い「回復」過程にあるとされているが、11-15年と実質賃金は低下している（2016年は若干のプラス）。これらのことからわかるように、「景気」動向、および、その変化、すなわち「景気循環」は、私達の生活に大きな影響を及ぼしている。本講義では、特に、2007・8年のグローバル金融経済危機に焦点を当てつつ、資本主義の歴史的变化と景気循環の変容につき説明する。								
到達目標	(1)資本主義の歴史的变化とともに景気循環がどう歴史的に変容してきたかの概略を説明することができる。また、それは同時に、景気循環という視点から、資本主義の変容の概略を説明できるということの意味する。 (2)1) アメリカ発サブプライム発グローバル金融経済危機の原因、その結果、今後の帰趨、2) アベノミクスの経過・結果、の概略を理解し、説明することができる。それは同時に、世界経済・日本経済の「今」を理解し、将来予測を行うことができるということの意味する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で扱った内容や、次回の授業で扱う予定の内容について、教科書及び参考書を用いて、また、図書館やインターネット等を利用して予習・復習を行う。授業外で計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 はじめに、自由主義段階の景気循環 【第2回】 19世紀末大不況 【第3回】 金融資本のもとでの景気循環の形態変化 【第4回】 世界大恐慌 【第5回】 世界大恐慌に対する対応 【第6回】 戦後高度成長 【第7回】 高度成長期日本の景気循環 【第8回】 高度成長の終焉とスタグフレーション 【第9回】 80・90年代アメリカの景気循環 【第10回】 70-90年代日本の景気循環（1） 【第11回】 70-90年代日本の景気循環（2） 【第12回】 グローバル金融経済危機（1） 【第13回】 グローバル金融経済危機（2） 【第14回】 アベノミクス下の「景気」動向 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	教科書を対象とした課題レポート（30%）、学期末試験（70%）により評価する。								
フィードバックの内容	試験の解答等の解説を Webclass にアップロードする。								
教科書	『新3版 現代経済の解説』SGCIME 編（御茶の水書房）2017年新刊								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	(1)それを踏まえた講義をしますので、第1期の景気循環論1を受講することが望ましい。 (2) 受講の際、毎回必ず教科書を持参すること。 (3) ……@rissho-univ.jp に送信された E-mail が手元で使っているスマホ・PC 等に転送されるように設定しておくこと。 なお、スマホ等の E-mail address が変わった場合には、忘れないで転送設定の変更をしておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する、質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内で対応する。また、メールによる質問・相談も受け付ける。 E-mail aosai@shinshu-u.ac.jp。 なお、青才と連絡を取りたい場合には、Webclass を通じてではなく、上記 E-mail address 宛に直接 E-mail すること。								
その他									